

釧路市の財政は「赤字」? 借金は?」

～数字だけに惑わされない原点です



平成 19年度決算で財政健全化法の数値が示されました。

そこで今回は釧路市の「財政状態」をお知らせします。

ただ、地方の実情を考えず、また地方自治の理念もなく、国が一方的に決めた数字ですので、ご留意ください。

赤字? 黒字? 一般会計は黒字です。億 2633万円。

実質赤字比率は }

「連結」した赤字は? 一般会計、特別会計、企業会計を「連結」して約 106億円の赤字。国が示す「基準」の率は 16.30で、釧路市は 7.41ですからOKです。連結実質赤字比率は }

借金は? 一般会計で 1233億円。しかし、国が示す「基準」の率は 25.0で、釧路市は 14.7ですからOKです。

実質公債費比率は }

市が将来負担するお金は? 一般会計の借金、市が「保証」している公社などの負債、企業会計の借金など約 2000億円。

国が示す「基準」の率は 350で、釧路市は 224.8ですからOKです。将来負担比率は }

とあえず「数字」は、財政健全化の範囲内におさまっているので「大丈夫」です。ただ、魚揚場事業会計は、この4つの基準以外の「資金不足比率」に引っ掛かれます。しかしこれは、一般会計から「支援」し、10年後には債務を解消予定です。

映画のお勧め 「ヒットラーの贗札」

ニセ札を作ると死刑になるとい話を聞いたことがあります。もちろん、たとえば素人がカラーコピーをした程度で、そんな重罪になるわけではないでしょう。大量のニセ札によって国の経済が混乱し、破綻してしまえば、国家が存亡の危機に立たされてしまうから、ということなのです。

ところがこれを、戦争の手段として利用した歴史の事実があります。第二次大戦中のナチス・ドイツは、敵対する連合国を窮地に陥れようとポンドやドルのニセ札を作り、しかもそのために、ユダヤ人の技術者たちにこの贗造(がんぞう)を強制させていたらしいのです。

映画「ヒットラーの贗札」は、こうした史実を収容所に送り込まれたユダヤ人贗作師の視点から描いた作品です。みずからの命を守るために、ナチスの陰謀に手を貸すのか、それとも迫害されたユダヤ人としてレジスタンスと共にたたかうのか、主人公の苦悩するさまにドラマの力が注がれます。いままでもなく、戦争は最大の国家悪です。

これほどまでに国民を苦しめ、犠牲を強いるものは他にはありません。映画の主人公が苦悩する、その背景に、戦争という犯罪の大きさを改めて考えさせられます。(岸本 聡)

うめつ通信

344号 (通算 638号)

2008年 10月 5日

発行 : 日本共産党釧路市議会議員 うめつ 則行
釧路市愛国西 3-30-18 電話 090-9082-4916